

東京八王子西ロータリークラブ会長賞

松浦 優花（まつうら ゆうか） みなみ野君田小 3 年生

作品名:「かあちゃん取扱説明書」を読んで

図 書:かあちゃん取扱説明書

わたしは『かあちゃん取扱説明書』という本を読みました。この本を読んだきっかけは、本を立ち読みした時おもしろそうだったからです。

一番心にのこった場面は、てつやの作文です。母ちゃんのわるい事をてつやが書いたその場面が気に入りました。その作文の中でわたしが一番気に入った母ちゃんのわるい事は、てつやが「このごはんおいしい。」と言ったら、三日もおなじごはんがつづく所です。ほかに、ロールケーキをくさらす母ちゃんや、みんなに「早く」と言うけど一番したくがおそいのは母ちゃん、とか色々のとっていておもしろかったです。

二番目に心にのこった場面は、サイテーな授業参観です。理由は、てつやは国語の音読で金子さんを「きんこさん」と読んだり、音楽ではリコーダーをわすれたり、算数の時間では、宿題をわすれてしまい、参観日に後ろで見ていた母ちゃんはカンカン。すごくおこっていたからです。わたしは右や左、友だちを見ていて「こら、前を向きなさい。」と参観日に注意されました。だから、わたしのお母さんとてつやの母ちゃんはにているなと思います。

わたしはこの本を読んでいて、てつやはわたしといっしょだなと思いました。わたしもお母さんにいつもおこられています。でも、わたしはお母さんにおこられて、ないてあやまるだけでいつも終わります。てつやはおこられてものりきるのでいいなと思いました。わたしは、てつやとおこられ同士で友だちになれる気がします。それにお母さんたちもおこっている同士でなかよくなれるだろうなと思います。わたしはしがから引こしてきた所なので、てつやみたいな友だちが出来たらうれしいです。わたしは、てつやみたいにおこられてもすぐにあそびに行ける方ではなく、ずっと家でお母さんに「ごめんなさい。」と言ってないです。だからわたしもてつやみたいに、のりきる力がほしいなと思いました。これからはわたしもてつやみたいにのりきりたいです。

わたしが本を読んで一番ふしぎだなと思った事は、『母ちゃん取扱説明書』はあるけど、何でお父さんや、おじいちゃんや、おばあちゃん取扱説明書はないのかな、と思いました。お父さんや、おじいちゃん、おばあちゃん取扱説明書もあったらいいのになと思います。でも、本当は心の中では、お父さんや、おじいちゃん、おばあちゃんより、お母さんがよくおこってこわいから『母ちゃん取扱説明書』はあるんだろうなと思っています。せっかく『母ちゃん取扱説明書』を読んだので、わたしもお母さんをやさしいお母さんにしてみたいです。そしてそのままやさしいお母さんになってほしいです。